



第八號



官許
琵琶湖新聞

定價三錢五厘

明治六年第五月

西垣文庫
文庫10
7374
8



緒言

新聞ノ徳タルヤ大ナリ内知見ヲ闢キ外事業ヲ施シ
 不知不識文明ノ域ニ進ミ開化ノ室ニ入り上下言路
 ヲ通ジ勸懲善惡ヲ判ス故ニ
 官許シテ天下ニ公ニスル所以ナリ庶幾ハ四方ノ君
 子上公裁ヨリ下俚言ニ至ルマデ縷々記載シ吾社ニ
 投入シ玉ハンコヲ是今日ノ必務ニシテ開明ノ徳ニ
 報ズル所以ナリト爾云

西文庫

湖新聞第八號



○ 郵便等ヲ以テ訴訟差出シ候者有之右ハ體裁ニ
 於テモ不都合ニ涉リ實際ニ於テモ裁判難相成候ニ
 付以來右等ノ書類差出候節ハ一切不取上其時々燒
 捨候條此旨相達候事

明治六年四月

司法大輔福岡孝弟

○ 太政官過半燒失ニ付諸願伺届共寫ヲ以一通ツ、
 可差出旨御沙汰ニ相成タル由

當縣

十五等出仕金穀專務

肥田守知

等外一等出仕收稅專務

廣瀬好和

等外二等出仕鞠獄專務

西村信武

右三負願ニ依テ退職ニナリタリ

○本月上旬ヨリ電信寮官員東京ヨリ長崎マデノ電信線検査トシテ出張且當縣へ立寄アリ此度日本國ヨリ海外へ電信機御取設ニ相成ル由既ニ倫敦ヨリ長崎マデ通信アリ検査済ノ上ハコレニ倣フ又國內へハ蜘蛛ノ巣ノ如ク諸方へ架ラル、ト右官負モ之カ為メ出張アリト聞ク又近々太政大臣公長崎へ御

發行アリテ同所ヨリ東京へ電信ヲ以 皇上御座

所へ御直ニ諸事御報知アラセラル候由嗚呼隆盛ナ

ル哉一線ヲ以テ海外萬國ノ事情ヲ一瞬間ニ知ル

寔ニ人智開明ノ盛舉ト云ツベシ今此海中電信線ノ

方法ハ針銅ヲ魚腹ノ浮囊ヤウナル長キ物ニ容レ其

レニ「ゴム」ヲ卷キ其上ヲ真字ノ類ニテ卷キ而シテ「チ

ヤン」ヲ塗リ所々ニ重リヲ縛リ付ケ水中ニ沉マスト

ナリ斯レバ永世不朽ノ良策電線ノ撓ムトナシト云

ヘリ

○東京新聞ニ四月十九日議長後藤象二郎文部大木

喬任司法卿江藤新平參議ニ任ゼラレタリ此三卿ハ
雄名ナル英傑ノ人ニテ能ク時務ニ達シ太政ヲ翼賛
シ治蹟ニ名アル世人ノ知ル所ナリ今三職ニ列スル
ソノ撰至當ノ舉ト云ベク從是政體ノ振起スル日ヲ
期シテ待ツベク誰カ國家ノ為ニ祝賀セザルヲ得ン
ヤ

○彦根屯所官員并ニ歩兵第十八大隊伏見へ移轉ノ
儀陸軍省ヨリ大阪鎮臺へ御沙汰アリ依テ追々彈藥
等差送りニ付此日ハ湖上蒸氣船通航留メニナリ又
道筋休泊ノ所ハ格別其他焚火ノ儀相成ラザル旨布

告アリタリ

○磐前縣管下田村郡三春駅任員屬士族湊季澄ナル
者アリ其祖母トよナル者本年八十二歳猶僂錄トシ
テ朝夕克ク炊飯汲水ノ勞ニ堪ユ而シテ其産ム所ノ
子孫八十二人アリテ團樂セリ人呼デ湊族ト云人間
ノ慶福誰カ能ク之ニ如ン官コレニ祝詞ヲ賜フソノ
辞ニ曰

士族湊季澄祖母

トよ

其方儀高齡八十二歳ニ相成リ孫子八十二人ヲ生育
候条天授ノ幸福感賞ノ至リニ付別紙目錄ノ通遣之

候事

目錄

書画扇一對

金五百匹

右扇面ノ一ハ七等出仕山内山彦ノ画ケル一母八十
二子ノ図一ハ小属小原實風ノ咏ズル祝詞ノ長歌ナ
リ實ニ近古稀世ノ異聞ナリ

○予此頃西京博覽會陳列ノ物品ヲ見ル可キアリテ
再度縱觀セシニ前日ニ違ハズ都鄙ノ人民群衆セリ
ソノ老若男子ノ体裁ヲ契視スルニ二十八九ハ散髮
ストイヘド其蓋シ其風數種ニシテ一ナラズ爰ニ概

ヲ云ハシ後ハナデルアリ左方ニテ各ルアリ右方ニ
ニ各ルアリ真中ニテ分テ又、左右前後ト四方へ覆
フアリ回リヲ剃リテ鳥頭ノ如ク残スアリ前ヲ剃リ
テ後ロニナデルアリ坊主トナリテ前ニ少シク髮ア
リ或ハ断髮シテ蜻蜓ノ如ク前ヲ剃ルアリ惣髮アリ
野郎アリ同シク前ヲ立テ或ハ茶筌ニ打紐又水引ナ
ドニテ結ヒ或ハ俗人ニテ坊主アリ坊主ニテ畜髮ア
リ又カツ付ニ結テ切ルアリソノ容躰計フルニ違ア
ラズ婦人ハ曾テヨリ結髮ニ數種アリトイヘドモ斯
男子ニ數髮アルハ未ダ聞カズ又服ヲ見ルニコレモ

數種アリ皆 皇國人ニシテ頭髮衣服ヲ見レバ何國ノ産タルヤ分ラス然リトイヘバカク異様ノ髮服ヲ見ルモ是亦博覽會ノ一得ナルベシ嗚呼方今開化進速ノ際紛紜トシテ躰裁ノ一ナラザル予敢テ知ルヲ得ス故ニ貴社ニ托シテ高評ヲ乞フ 右投書

○浅井郡第十三區下八木村副戸長秋野九右衛門八木源助ナル者方今開明ノ秋ニ際シ依然トシテ陋習ヲ墨守シ先ヅ其一ニ云ハシ村會毎ニ酒肴ヲ割烹店ニ命ジ又若者仲ヶ間等ノ惡習モ依然トシ且ツ輓送シヤンキリ太鼓ヲ求メ去月頃村民ヲ鼓舞シ淨瑠

璃ヲ興行シ又獅々舞ヲ催シ此等ノ費用凡ソ十數圓金ヲ費ス而シテ其費用ハ戸毎ニ課シテ之レヲ出ス然ルニ同村八木長平ナル者此惡弊ヲ一洗シ下民ヲシテ公明盛大ノ政令ニ浴セシメ且ツ固陋ノ僻邑ナレバ早ク小学校ヲ設ケ小童ヲシテ開明ノ域ニ進歩セシメンコトヲ鞠躬盡カストイヘドモ前ノ二人等ニ抑壓セラレ果スト能ハズ又諫ムレドモ用ヒズ亦布告等到来スレドモ等閑ニシテ村内ニ頒布スルコトナシトゾ夫レ戸長副戸長ノ主務タルヤ政令ヲ村内ニ施シ了解ナル者ニハ説之教之懇篤ニ之レヲ演ベ

上旨ヲ奉戴セシメ村内ノ安存ヲ虞リ各自ノ權利ヲ保護シ長幼ノ禮ヲ正フスルコソ職掌タレ然ルニ最第一ニ識得スベキ政令モ中途ニ擁蔽シ敢テ非義ノ業ヲ擅ニナスハ實ニ憎ムベキニアラズヤ長平ノ如キ者ハ亦賞スベキニアラズヤ十日ノ見ル所十手ノ指ストコロ夫レ嚴ナリ嘻慎マズンバアルベカラズ

右投書

○三州岡崎ヨリ報告ニ同所近傍ハ養豚流行ニテ市在各所ニ蕃殖スル其數頗ル多ク其價モ倍々沸騰シ最貴重トスル者ハ虎符ト純黒トノ二種ヲ以テス此

二種ヲ産スル者其價兎豚ニテ一匹六百圓ニ至ルト云フ畜豚ニ熟練スル者ハ俄ニ産ヲ起シ其富兩三月ニシテ萬金ヲ得ルニ至ル故ニ近國隣境ヘモ追々傳播シ岡崎ヨリ一月以來他へ輸出スル金高九一万餘ニ及ブト云フ

○磐前縣ヨリノ報告ニ先般 皇太后宮 皇后宮以來御黛鈿漿廢サレタル盛事ニ感激シ同縣管内ノ婦女子等眉毛ヲ生ジ鈿漿ヲ褪シ候儀ハ勝手タルベク旧來ノ風習ニ固著セズ無用ノ物ヲ廢シ天地ノ正理ニ從ヒ稟賦ノ性ヲ傷損セザル様諭示シタリマタ

同縣下第五大區白川郡寶坂村ノ伍長會津照房ナル者人民ノ時勢ニ暗ク維新ノ廳旨何物タルヲ知ラザル頑陋ノ風習ヲ慨歎シ御布告類ハ勿論方今開化ノ景況又ハ新聞紙中人民ノ良知ヲ開クベキ様ノ事ハ到底門前ニ張出シ不學盲昧ノ陋民へ垂示シ難解意味ハ丁寧ニ讀誦説明セリ爾來人民廳旨ヲ了解シ時勢ヲ悟リ民風靡然トシテ開化ニ進入スルノ勢ヒニナリタリト云フ

○香港新聞中ニ厦門ノ西村落ニ猛虎横行シ郷人被噬者二十人豚羊等ニ至テハ之ガ牲トナル者數フル

ニ違アラズ此山上ニ一廟アリ何神タルヤ廟内ニハ神官工人耕植セリ一族皆猛虎ノ為ニ噬レタレバ敢テ爰ニ來ル者ナシ因テ村人虎患ヲ警メ日出ヨリ日没マデニ耕人連隊家ニ返ルヲ數日不便ニ堪ヘズ禦虎ノ法ヲ議シ此ノ山神地神ヲ祀リ猪羊ヲ供シテ大饗禮ヲ行ハシ神靈民ノ為ニ害ヲ除カント衆皆其說ヲ然リトシテ日ヲ擇ミ祈禱シ安悦セシガ其翌又一入ヲ殺ス衆咸怨恨シ山地神トモ靈ナシト再ビ議ス第山道人ト云山伏ニ請フテ法ヲ修セシム村人思ヘラク果シテ伏虎アラント豈知ラン虎ノ躰出スル故

ノ如シ村人均シク無能不益ツヒニ厦門ニ至テ防禦
ノ方法ヲ請ケレバ西洋人コレガ為ニ盡力虎ヲ驅テ
其患ヲ絶セリ之ニ因テ見ルニ虚術ノ實力ニ及バザ
ル明白ナリ故ニ記出シテ江湖惑溺ノ諸人ニ示スト
云爾

○昨壬申年静岡縣管内ノ製茶高惣計二百二十五万
斤同年和歌山管内ノ製茶物計三十三万三千四百斤
餘ナリ静岡管轄地二十五万石和歌山ハ四十万石之
レヲ以テ管内ノ廣狹ヲ見ルニ静岡稍半減ノ地ヨリ
シテ五増倍余ノ高ヲ產生スルニ至ルコノ地ノ物産

ニ勉勵スル推シテ知ルベキナリ駿ノ地タル從來製
茶五十万斤内外ナリシガ徳川氏ノ此土ニ封ズルヤ
數万ノ士祿ヲ給スルニ餘カナク駿遠不毛荒蕪ノ地
へ今移シ墾田開拓ヲ勉メ僅カ五ヶ年ニシテ製茶四
増倍ノ産ニ至ルソノ餘物産ノ繁殖コレニ準ズ是レ
勉ルト不勉トノ実證ナリ苟クモ富強ヲ謀ル者爰ニ
注意セズンバアルベカラズ

記者曰ク盛ナル哉静岡管下ノ物産ニ盡カスル
一當國從來製茶ノ名譽アリ其巨擘タルヤ信樂政
所ナリ而シテ近年各村ニ繁殖スルト雖モ通國ヲ

以テ之ヲ計レバ其茶ヲ製スルヤ未ダ十ガ二三ナ
ルベシ且ツ今現ニ荒蕪ノ地ナキニ非ズ請フ物産
興隆有志ノ人々地カヲ盡スハ富饒ノ基根ナレバ
旧来ノ陋習ヲ捨テ彼我ノ僻論ヲ破リ協心同力奮
發勉強シテ開墾ナサバ 國家ノ御利益物産ノ繁
殖日ヲ期シテ見ル可キナリト

汎告

神戸新聞同所諸相庭付并ニ長崎新聞度會新聞等毎
號當局へ早著有之候間望ミシ方ハ御申越有之度候
琵琶湖新聞第八號終

伏テ四方ノ君子ニ敬白ス既ニ官許ヲ蒙リ局ヲ開キ新聞ヲ刊行シ
邑僻^ノマテモ擲メ遠近日新ノ景況ヲ告ゲ俱ニ開化文明ノ域ニ進マン
トヲ希望ス雖然耳目ノ届ガザル多シ願クハ小大トナク傳書綴リ本
局又ハ所々出局取次所等へ出シ玉へ次第ニ出版致スベシ但遠路ハ殊
ニ報知ヲ希フ其書付ニハ何レモ其住所姓名ヲ載セ玉へ無名ノ書ハ敢
テ採入セズ無根ノ浮言造説アルヲ恐ル

總テ望ニヨツテ出版スル事件大略

- 諸會社ニテ取扱ノ品々出入數量○物價ノ高低○新規發明ノ器械
- 諸開店ノ披露○田園山林家邸舟車等ノ賣買貸借○失物尋物
- 觀セ物集會等ノ披露○諸藝私塾開業ノ披露○諸產物家具食品藥劑
等一切ノ賣買○金銀貸借
- 右ノ外總テ世間ニ弘メ人ニ知ラシメントノ事情ハ何レモ一行廿二字
價三錢ニテ引受出版致スベシ

本局

近江國大津船頭町

琵琶湖新聞會社

大津濱通
原田

五郎助

大津京町
古川

伊助

彦根桶屋町

高田

平三

長濱

田邊

耕平

鳥井本

平十郎

八幡町

木村

源造

八日市

福原

守山

愛知川

清次郎

日笠町

上林

嘉右衛門

次

草津

田中

大溝

平右衛門

水口驛

伏木

八郎

本堅田

北村

清十郎

三矢

治兵衛

石部驛

小嶋

金左衛門

海津

金谷

平三郎

出局

賣弘所

